

「大阪住宅振興会」認定住宅 設計チェックシート

【木造】 まもりすまい保険設計施工基準に加え、AまたはBのタイプに適合する設計としてください。

□Aタイプ：基礎高 400 mm＋外壁通気工法とするタイプ

基礎高さ	□GL＋400 mm以上（品質管理基準第7条）
外壁通気工法	□外壁の防水（品質管理基準第24条）

□Bタイプ：住宅性能評価基準の劣化対策等級2以上とするタイプ

基礎高さ	□GL＋400 mm以上（品質管理基準第7条）	
外壁の軸組等の 防腐・防蟻	□GL 1 m の範囲	柱：□薬剤処理 □小径 12 cm以上 □耐久性区分D1 のいずれか
		柱以外の軸組材：□薬剤処理 □耐久性区分D1 のいずれか
		合板：□薬剤処理
土台の防腐・防蟻対策	□土台に接する外壁下部に水切設置 □薬剤処理（K3以上） □耐久性区分D1 のいずれか	
浴室・脱衣室の防水	□防水上有効な仕上げ □ユニットバス設置 のいずれか	
地盤の防蟻	□ベタ基礎採用 □地盤の薬剤処理 のいずれか	
床下の防湿・換気	□60 mm以上の防湿コンクリート（ベタ基礎等）又は 0.1 mm以上の防湿フィルム	
	□換気口の設置	
小屋裏換気 （右記のいずれか） ※屋根断熱工法等 の場合を除く	□小屋裏（妻壁）給排気 1/300 以上	
	□軒裏給排気 1/250 以上	
	□軒裏又は小屋裏給気＋小屋裏排気 1/900 以上	
	□軒裏又は小屋裏給気＋排気塔排気 給気口 1/900 以上 排気口 1/1600 以上	

【鉄骨造】 まもりすまい保険設計施工基準に加え、下記に適合する設計としてください。

□防湿措置（べた基礎の場合を除く）

部 位	仕 様
床下地面 （右記のいずれか）	□床下地面全体に厚さ 6 cm以上のコンクリートを打設 打設前の床下は十分突き固める □床下地面全体に防湿フィルム（JISA6930,JISZ1702,JISK6781 に適合で厚さ 0.1 mm以上）を敷き詰める。防湿フィルムの重ね幅は 15 cm以上とし、防湿フィルムの全面を乾燥した砂、砂利又はコンクリート押さえとする

□床下換気（床下に空間が生じる場合（基礎断熱施工の場合を除く））

部 位	仕 様
外周部（右記のいずれか）	□有効面積：300 cm ² 以上、間隔：4 m以内 □ねこ土台：1 m当たり 75 cm ² 以上

□小屋裏換気（小屋裏空間が生じない時、屋根面に断熱材を施工する場合を除く）

部 位		仕 様
小 屋 裏 換 気	換気口の設置	□独立した小屋裏ごとに2か所以上
	有 効 面 積（右記 の い ず れ か）	□両妻壁に設置 有効換気面積：天井面積の 1/300 以上
		□軒裏に設置 有効換気面積：天井面積の 1/250 以上
		□軒裏換気、妻壁排気 を設置 □垂直距離で90 cm以上離す □それぞれの換気孔面積：天井面積の 1/900 以上
		□器具を用いた 排気孔、軒裏給気孔 □排気孔面積：天井面積の 1/1600 以上 □給気孔面積：天井面積の 1/900 以上
		□軒裏給気孔を設置 □排気孔面積：天井面積の 1/1600 以上 □給気孔面積：天井面積の 1/900 以上

【RC造】 まもりすまい保険設計施工基準に加え、下記に適合する設計としてください。

□コンクリートの品質等

部 位	仕 様
使用するセメント （右記のいずれか）	□ポルトランドセメント（日本工業規格 R5210） □フライアッシュセメント（日本工業規格 R5213） □高炉セメント（日本工業規格 R5211）
コンクリートのスランプ （右記のいずれか）	□コンクリート強度が 33N/mm ² 未満：18cm 以下 □コンクリート強度が 33N/mm ² 以上：21cm 以下
コンクリートの単位水量	□185kg/m ³ 以下
コンクリート中の空気量	□4%～6%（※日最低気温の平滑平均値の年間極値が 0℃を下回る場合）